





























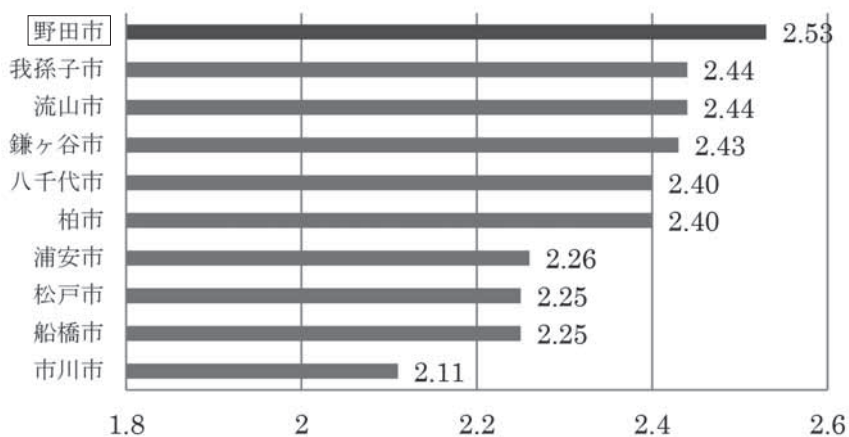






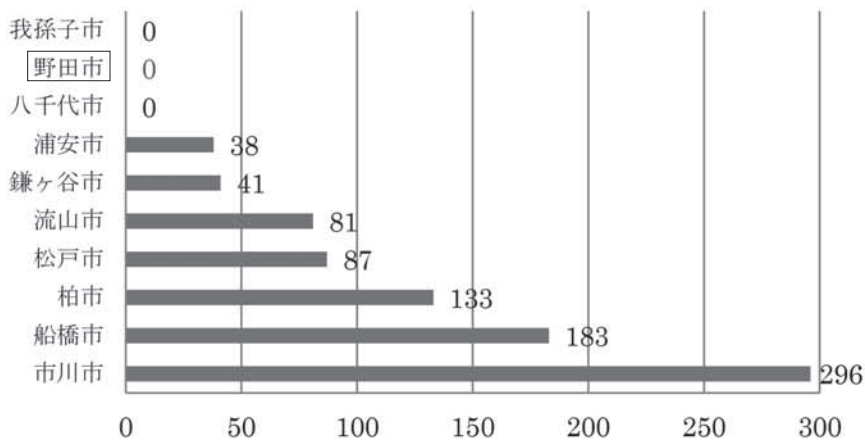


図5-2-⑥ 1世帯あたりの人数(人)〔数値：2011年〕



〔出典：総務省「住民基本台帳人口要覧2011.3」〕

図5-2-⑦ 保育園待機児童数(人)〔数値：2012年〕



〔出典：千葉県待機児童数調査結果・平成24年4月1日〕

### (3) 社会とのつながりと市民の自立

この評価軸は、地域の人たちが相互に信頼し合い、助け合うような関係性の状況についてみる。また社会活動や政治に対する関心が高い地域は個人のライフキャリアも充実していると考えられるので、それについても検証する。野田市を他の9市と4つの指標について比較をした結果は、次の通りである(図6)。

「3-① 自治会加入世帯率(74.8%)」第3位

「3-② 65歳以上100人あたりの老人クラブ会員数(12.3人)」第3位

「3-③ 人口1万人あたりのNPO法人数(2.4件)」第9位

「3-④ 平成21年度衆議院選挙投票率(63.22%)」第10位

まず、地域とのつながりのあり方をみると、「3-① 自治会加入世帯率(74.8%)」は第3位である。アパートなどの賃貸住宅に住む人たちは自治会に加入しないことが多い。それに比べて持家の住民は定住性があることから、自治会の加入率が高い。日常的には、資源ごみを当番で回収することや、市報(市の広報誌)の配布や回覧板を通じて市役所からの情報を周知する。また、自治会独自の取り組みとしては、子ども会の活動や祭りなどのイベントをする。また、「3-② 65歳以上100人あたりの老人クラブ会員数(12.3人)」は第3位である。老人クラブは、地域の高齢者の親睦をはかり生涯学習活動などをする。地域における高齢者のコミュニティとなっている。

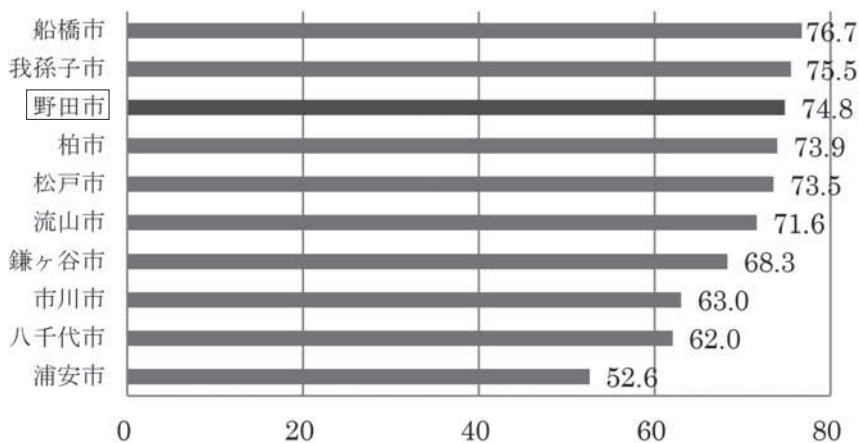
続いて、市民の自立に関して検証する。「3-③ 人口1万人あたりのNPO法人数(2.4件)」と少なく第9位と劣位である。NPO法人が多いということは、市民が、地域の課題を解決するために志をもち行動することを表しており、市民の成熟度をみる一つの指標になる。つまり何事も自治体に任せることをせずに、市民として自らができることは、ミッションをもち、実現するために準備をして実践し、その結果を公開することである。そのためにマネジメント力も問われる。NPOのメンバーは「市民」の資格を有する者ということができる。

また、「3-④ 平成21年度衆議院選挙投票率(63.22%)」は最も低く、第10位である。千葉県の平均投票率は64.87%、全国平均は69.46%である。野田市は、

それまでも選挙の投票率は低い。

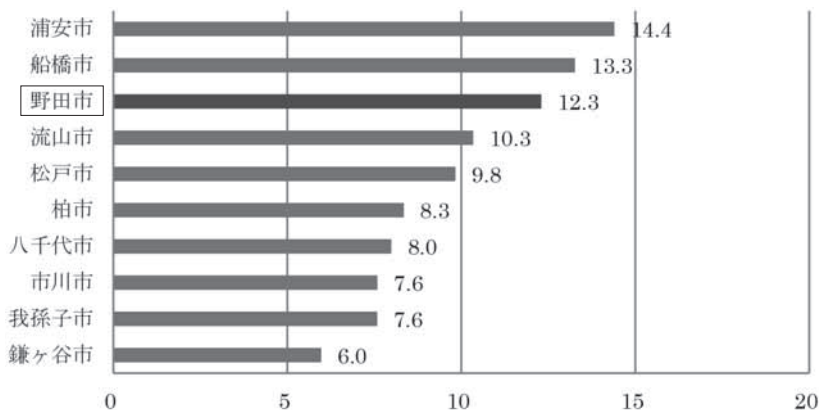
以上、野田市の住民は、自治会や老人会による地域コミュニティのつながりは問題なさそうであるが、自治体などへの依存体質を脱却しきれないという課題が残る。

図6-3-① 自治会加入世帯率 (%)



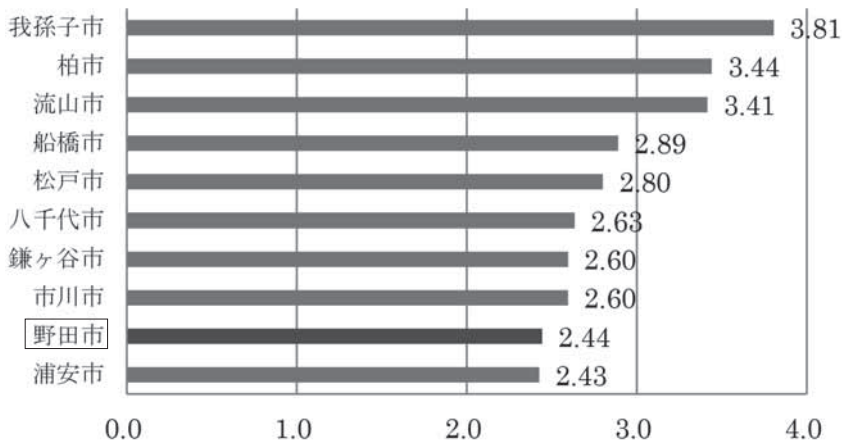
[出典：各市調査]

図6-3-② 65歳以上100人あたり老人クラブ会員数 (人) [数値：2012年]



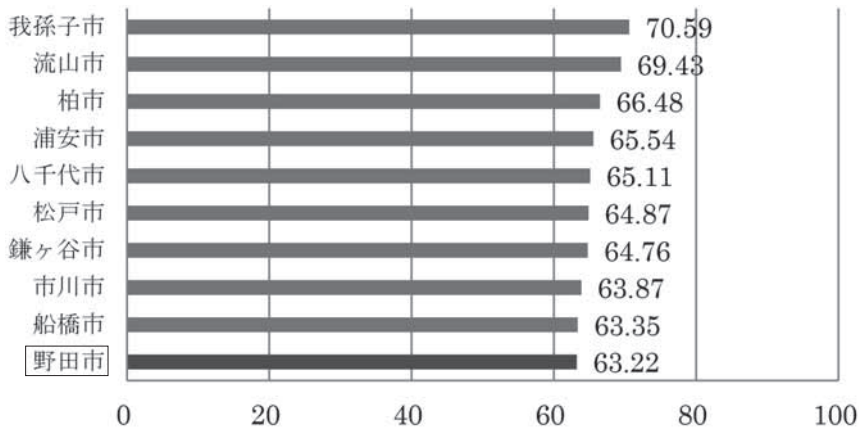
[出典：千葉県ホームページ2012年から算出]

図6-3-③ 人口1万人あたりのNPO法人数〔数値：2012年〕



〔出典：千葉県NPO・ボランティア情報ネット2012年から算出〕

図6-3-④ 2009年衆議院選挙投票率(%)



〔出典：平成21年8月30日執行衆議院議員総選挙・最高裁判所裁判官国民審査結果調〕

#### (4) 地域のブランド力

この評価軸は、野田市の住民がもつ地域の自慢や誇りのようなものは何か、またその結果として地域に及ぼす波及効果をみるものである。

野田市を、他の9市と2つの指標について比較をした結果は、次の通りである(図7)。

「4-① 住宅地地価(662百円/m<sup>2</sup>)」第10位

「4-② 大学生123人による各市のブランドイメージ(醤油)」第3位

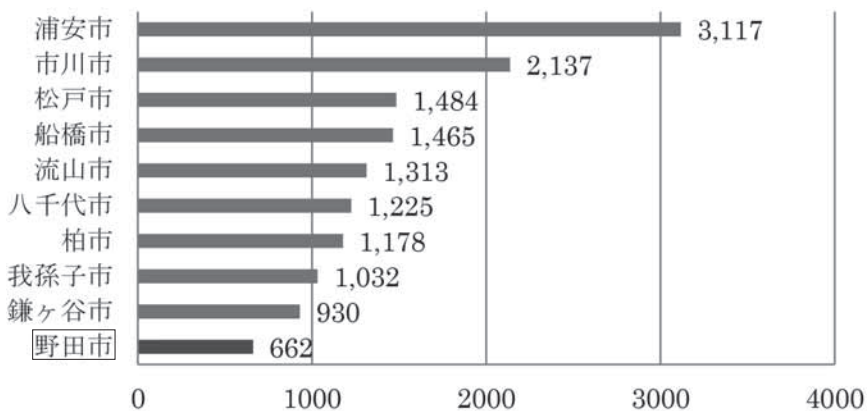
本来ならば、各市の「住民意識調査」からデータを収集するべきであるが、今回は2つの指標からわかったことをみていく。野田市では、「4-① 住宅地地価(662百円/m<sup>2</sup>)」は最も安く第10位である。また、「4-② 大学生123人による各市のブランドイメージ(醤油)」は第3位である。これは、本学部の1年生に授業アンケートしたものである。学生が各市のブランドイメージを自由に記述した(複数記述有り)ものを集計した。第1位は浦安市(東京ディズニーランド)、第2位は柏市(プロサッカー「柏レイソル」)、第3位は野田市(醤油産業)、第4位は船橋市(市立船橋高校のスポーツ、大型ショッピング施設の「ららぽーと船橋」)、第5位は鎌ヶ谷市(プロ野球「日本ハムの鎌ヶ谷スタジアム」)などである。市川市、我孫子市(5ポイント未満)は未表記とした。

地価に関する結果は、ブランド力を直接的に反映するものとはいえない。しかし、三鷹市のジブリ美術館や境港市の水木しげるロードの事例をみるならば、全く無関係とはいえない。特に、浦安市の地価は最高額(31.2万円/m<sup>2</sup>)で野田市の約5倍にのぼる。もっとも浦安市と同じ都心(東京駅)から20キロ圏内の川口市の平均地価(23.9万円/m<sup>2</sup>)と比べても浦安市の方が高い。

川口市はかつて「鋳物の町」というブランドイメージがあったが鋳物産業の衰退化とともにブランド力も消えつつある。やはり、浦安市にとって、東京ディズニーランドは強いブランド力になっているようである。

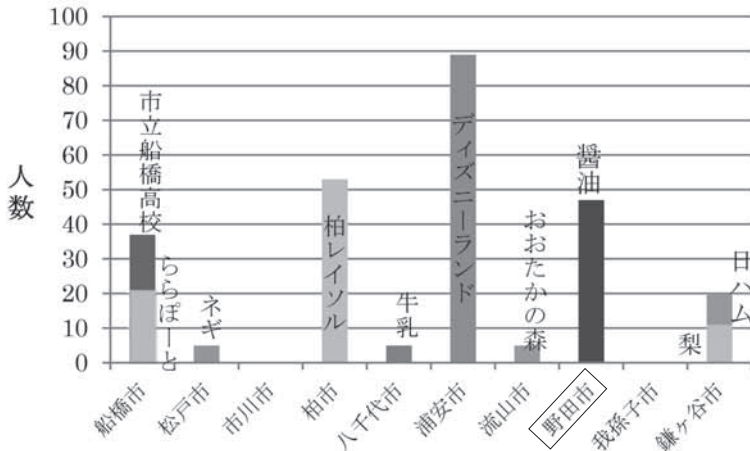
しかし、ここでいうライフキャリアにとってのブランド力とは、地元に住む人たちが他者に自慢できるようなもので、そうした意識をもつことで生きがいにつながることである。それに関するデータ化は今後の課題としておきたい。

図7-4-① 住宅地地価 (百円)



〔出典：『都市データ』2010年版〕

図7-4-② 大学生123人による各市のブランドイメージ [2012年10月調査]



〔表1〕野田市民のライフキャリア充実度評価の総括表

| 評価軸                       | 指 標                    | 順位  |
|---------------------------|------------------------|-----|
| 安心・安全・<br>アメニティの充実        | 人口密度                   | 1位  |
|                           | 持家世帯の比率                | 1位  |
|                           | 住宅延べ床面積                | 1位  |
|                           | 人口1万人あたりの犯罪件数          | 7位  |
|                           | 人口1万人あたりの建物出火件数        | 10位 |
|                           | 市民1人1日当たりのごみ総排出量       | 3位  |
|                           | 65歳以上人口1千人あたりの老人ホーム定員数 | 1位  |
|                           | 人口1千人あたりの知的障害者援護施設定員数  | 2位  |
| 安定した収入や働きがい<br>のある雇用の場の確保 | 納税者1人当たりの所得            | 10位 |
|                           | 自市内の就業割合               | 1位  |
|                           | 完全失業率（定率順）             | 5位  |
|                           | 人口1千人あたりの被生活保護者数       | 6位  |
|                           | 30代～40代女性の労働力率         | 1位  |
|                           | 1世帯あたり人員               | 1位  |
|                           | 保育園待機児童数               | 1位  |
| 社会とのつながりと<br>市民の自立        | 自治会加入世帯率               | 3位  |
|                           | 65歳以上100人あたりの老人クラブ会員数  | 3位  |
|                           | 人口1万人あたりのNPO法人数        | 9位  |
|                           | 平成24年衆議院選挙投票率          | 10位 |
| ブランド力                     | 住宅地地価                  | 10位 |
|                           | 大学生によるブランドイメージ         | 3位  |

## 6. ライフキャリア評価結果の総括

### (1) 野田市住民のライフキャリアの実情

以上、野田市を中心にして評価軸ごとに分析した。それらを総括すると（表1）の通りとなる。

この表から分かることは、野田市の場合、評価軸ごとに相対優位と劣位に格差があることである。すなわち、野田市民のライフキャリアでは、住環境は良く、一世帯家族の人数から家族というコミュニティを生活基盤にしている人た

ちが多い。これには第一次産業の就業者（農業・畜産）が他市に比べて多いことも少なからず影響していると思われる。

しかし、防災・防犯という安心・安全さには課題が残る。雇用面では、納税者の平均所得は低い、市内で働く機会は多く「職住近接」型になっている。30代～40代の女性の就業率も高く、その収入を家計の補助にあてているとも思われる。保育園の受け入れ態勢が整っている、子育て世代の女性が仕事をしやすい。また、自治会や老人クラブからみると地域でのつながりや交流関係がある。しかし、NPOの組織率や選挙の投票率が低いことから、社会や政治に参加する意識は高いとはいえず、行動力も伴わないという課題が残る。

## （2）千葉県北西部10市の住民のライフキャリアの実情

野田市を含めた10市の住民のライフキャリアについての成績は（表2）の通りである。そこで、住民の「ライフキャリア度」が高い都市はどこであろうか。そのために、各市の（相対優位の総数－相対劣位の総数＝住民のライフキャリア度）を計算する。なお、各指標の配点は相対優位（1点）、相対中位（0点）、相対劣位（－1点）とする。その結果、上位は、野田市（8点）、我孫子市（6点）、流山市（5点）の3市である。逆に下位は市川市（－8点）、次に松戸市（－6点）となる。




上位の3市における相対優位の共通指標は、住環境が良いことや、一世帯の人数が多いことである。これは自然が豊かであり、広めの住宅に住むことができ健康で快適な生活をしていることを意味する。また一世帯は平均2.4人以上になるが、これは家族のコミュニティが顕在化しているからともいえる。また、自治会の加入率が高いことから地元住民のつながりがあることや、保育園の待機児童が少なく、女性の就業率も高くなっている。

それとは対照的に、下位2市における相対劣位の共通指標は、住環境が良くないこと、一世帯の人数が少ないことや、被生活保護者が多く、老人ホームや知的障害者施設の定員数が少ないことである。すなわち、前者よりも人口密度が高く、住宅は持家が少なく、住宅床面積も狭い。また被生活保護者が多く、福祉施設の整備が遅れていることは、ライフキャリアにとって不安になる。一世帯の人数が少ないことは家族よりも単身者が目立つことである。すると地域



〔表2〕千葉県北西部10市のライフキャリアに関する成績表

| 評価軸                                    | 指標                     | 船橋市  | 松戸市  | 市川市  | 柏市   | 八千代市 | 浦安市  | 流山市  | 野田市  | 我孫子市 | 鎌ヶ谷市 |
|--|------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| (基礎データ)                                | 人口(2010年)単位:万人         | 60.9 | 48.4 | 47.4 | 40.4 | 19   | 16.5 | 16.4 | 15.6 | 13.4 | 10.8 |
| 安心・安全・アメニティの充実                         | 人口密度                   | 7    | 8    | 9    | 4    | 6    | 10   | 3    | 1    | 2    | 5    |
|  | 持家世帯の比率                | 7    | 8    | 10   | 5    | 6    | 9    | 4    | 1    | 3    | 2    |
|  | 住宅延べ床面積                | 7    | 8    | 9    | 4    | 6    | 10   | 3    | 1    | 2    | 5    |
|  | 人口1万人あたりの犯罪件数          | 5    | 6    | 2    | 3    | 9    | 10   | 4    | 7    | 1    | 8    |
|  | 人口1万人あたりの建物出火件数        | 7    | 5    | 4    | 9    | 3    | 6    | 2    | 10   | 1    | 8    |
|  | 市民1人1日当たりのごみ総排出量       | 9    | 5    | 1    | 6    | 4    | 10   | 8    | 3    | 7    | 2    |
|  | 65歳以上人口1千人あたりの老人ホーム定員数 | 4    | 8    | 9    | 2    | 6    | 7    | 5    | 1    | 10   | 3    |
| 人口1千人あたりの知的障害者援護施設定員数                  | 6                      | 9    | 10   | 4    | 5    | 7    | 8    | 2    | 3    | 1    |      |
| 安定した収入や働いている雇場の確保                      | 納税者1人当たりの所得            | 6    | 8    | 2    | 5    | 7    | 1    | 3    | 10   | 4    | 9    |
|  | 自市内の就業割合               | 4    | 3    | 7    | 2    | 4    | 6    | 10   | 1    | 8    | 9    |
|  | 完全失業率(定率順)             | 6    | 6    | 3    | 2    | 9    | 1    | 4    | 5    | 8    | 10   |
|  | 人口1千人あたりの被生活保護者数       | 9    | 10   | 8    | 3    | 7    | 1    | 4    | 6    | 2    | 5    |
|  | 30代~40代女性の労働力率         | 8    | 5    | 6    | 7    | 9    | 10   | 3    | 1    | 4    | 2    |
|  | 1世帯あたり人員               | 9    | 8    | 10   | 6    | 5    | 7    | 3    | 1    | 2    | 4    |
|  | 保育園待機児童数               | 9    | 7    | 10   | 8    | 1    | 4    | 6    | 1    | 1    | 5    |
| 社会とのつながりと市民の自立                         | 自治会加入世帯率               | 1    | 5    | 8    | 4    | 9    | 10   | 6    | 3    | 2    | 7    |
|  | 65歳以上100人あたりの老人クラブ会員数  | 2    | 5    | 8    | 6    | 7    | 1    | 4    | 3    | 9    | 10   |
|  | 人口1万人あたりのNPO法人数        | 4    | 5    | 8    | 2    | 6    | 10   | 3    | 9    | 1    | 7    |
|  | 平成21年衆議院選挙投票率          | 9    | 6    | 8    | 3    | 5    | 4    | 2    | 10   | 1    | 7    |
| ブランド力                                  | 住宅地地価                  | 4    | 3    | 2    | 7    | 6    | 1    | 5    | 10   | 8    | 9    |
|  | 大学生によるブランドイメージ         | 4    | 6    | 10   | 2    | 6    | 1    | 6    | 3    | 10   | 5    |
| ライフキャリア度<br>(相対優位1点、相対中位0点、相対劣位-1点の合計) |                        | -4   | -6   | -8   | 5    | -2   | -2   | 5    | 8    | 6    | -2   |

\*各マス目は順位: は相対優位(1位~3位)、は相対中位(4位~7位)、は相対劣位(8位以下)を示す。

における他者とのつながりも希薄になりがちとなる。

以上の指標間のうち、人口密度が高いほど持家世帯数は少なく、住宅床面積も狭くなるし、一世帯人数も少なくなることは相関する。また人口規模が多ければ生活保護者数が増えることも相関している。

すなわち、都心に近い中核市は交通の利便性が良く、商業施設などが整備されていることから人気がある。しかし、ライフキャリアという視点からみると、むしろ人口10万人台の自然環境が恵まれた地域の方が、その充実度を高めることに適しているといえる。

## 7. 野田市の政策「市民のキャリアデザイン」を検証する

野田市では、2007年4月から野田市郷土博物館に指定管理者制度を導入してNPO法人が運営するようになった。その経緯についてはこれまでに拙著で触れてきたとおりである<sup>(8)</sup>。野田市は、「キャリアデザインによるまちづくり」を市の政策にして、博物館をその活動拠点に位置付けた。それは、個人の自立を目指すことと合わせて、市民として主体的に社会参加する人材育成を目指している。そこで、こうした政策が、住民のライフキャリアの現状にとって必要性のあるものなのかどうかについて検証してみたい。

先述したように、野田市の住民のライフキャリアにとっての課題は、納税者の所得が低いこと（第10位）、NPO法人が少ないこと（第9位）、選挙の投票率が低いこと（第10位）である。所得については経済対策なので、博物館に直接関係するものではない。しかし、「人口1万人あたりのNPO法人数」と「平成21年衆議院選挙投票率」は正の相関 $[0.84306 (P=.002 < .01)]$ である。「NPO数」が多ければ「投票率」も上がっている。一方、「NPO数」と「人口1万人あたりの年間犯罪件数」とは負の相関 $[-0.79208 (P=.006 < .01)]$ である。

野田市の場合は、「NPO数」が少なく「投票率」も低い。そして、「犯罪件数」は多くなっている（図7-1・2）。なぜ、そうなるのだろうか。一つの考えとしては、NPO数が多く、選挙の投票率が高いことは、地域や社会に関心をもち自治意識の高い人たちが一定数にのぼることになり、地域の防犯にも積極的に関わることになるからではないだろうか。

野田市による「キャリアデザインによるまちづくり」という政策は、こうし

図7-1 NPO数と投票率の散布図

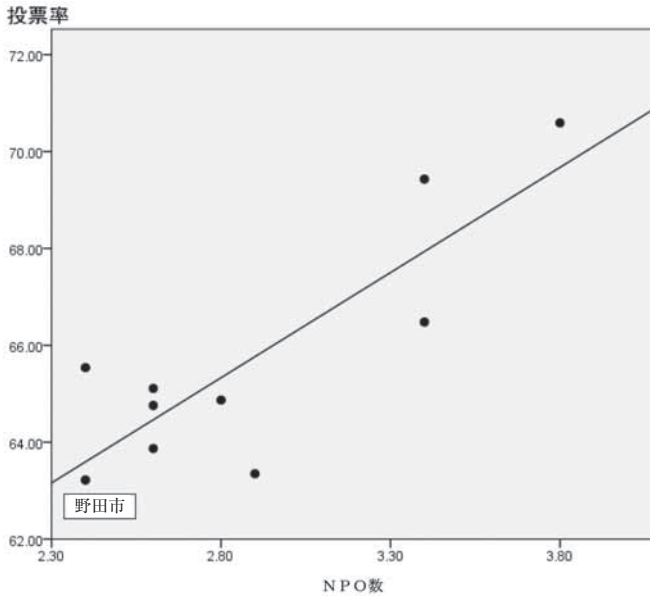
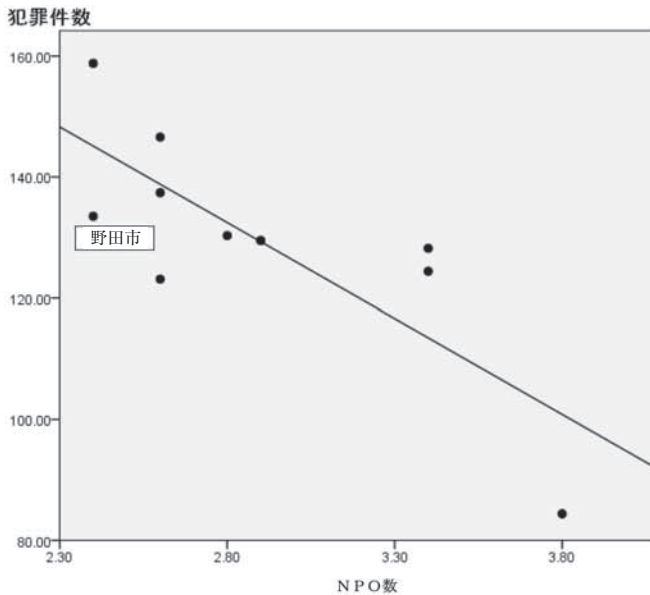


図7-2 NPO数と犯罪件数の散布図



90 法政大学キャリアデザイン学部紀要第10号

た課題を解決する取り組みになる。野田市郷土博物館は、「人びとの生き方や成長を支援して、キャリアデザインをはかること」をミッションの一つにして、そうした課題を解決するために活動している。

## おわりに

最後に、本稿の意義を整理し課題を述べることにする。

- ① 千葉県北西部の10市を事例にして、各市の住民のライフキャリアの充実度を定量的に評価することを試みた。その結果、都市ごとに特性はあるものの、人口規模が多い都市の住民のライフキャリアが必ずしも充実するわけではなく、人口10万人台の都市の方が充実していることを明らかにした。但し、同じ市域でも、昔からの住民が住む土地と、市外から転居した人たちが住む新興住宅地や、平成や昭和時代の市町村合併以前の旧町村を単位とする土地などは、それぞれの特性があると思われる。しかし、本稿では、一つの自治体を単位に「地域」と想定することにした。
- ② 次に、野田市の住民のライフキャリアの充実度の水準は、他市に比べて高いことが判明した。しかし、市民の自立性が他市に比べて劣位であるという課題もある。野田市が政策とする「キャリアデザインとまちづくり」は、まさにその課題を解決しようとするものとなっている。指定管理者制度によってNPO法人野田文化広場が野田市郷土博物館を運営するが、そのミッションのひとつになっている「市民のキャリアデザインを支援する」ことは、そのための具体的な活動である。
- ③ 現状の公立博物館などの文化行政は、実質的なミッションが不在のことが多い。しかし、自治体政策の視点から住民のライフキャリアの充実をはかるためには、本稿で述べたように、地域ごとに現状を分析し評価する。そのうえで適切なミッションを設定して、それを達成するために具体的な活動をすることである。
- ④ 今後の課題としては、本稿で扱った評価軸の各指標については、再検討することも必要だと思われる。例えば、「社会とのつながり」の評価軸には、神社の氏子数や、自治会の子ども会に加入する子ども数なども指標を追加する。また「ブランド力」の評価軸についても、さらに適切な指標を

設定してデータ化をはかることにも留意したい。

[参考文献・資料]

- (1) ジョセフ・E・スティグリッツ、ジャンポール・フィットウシ、アマティア・セン（福島清彦訳）『暮らしの質を測る—経済成長率を超える幸福度指標の提案』、一般社団法人金融財政事情研究会、2012
- (2) ブルーノ・S・フライ（白石小百合訳）『幸福度をはかる経済学』NTT出版、2012
- (3) ジグミ・ティンレイ『国民総幸福度（GNH）による新しい世界へ：ブータン王国ティンレイ首相講演録』（日本GNH学会編）芙蓉書房出版、2011
- (4) くまもと幸福量研究会『県民幸福量を測る指標についての意見書』（平成23年7月7日）
- (5) 上山信一監修・玉村雅敏副監修・千田俊樹『住民幸福度に基づく都市の実力評価』時事通信社、2012
- (6) 金山喜昭『公立博物館をNPOに任せたら』同成社、2012
- (7) 野田市ホームページ：<http://www.city.noda.chiba.jp/kakusyu/pdf/fukushi-03.pdf>
- (8) 註（6）と同じ

---

## ABSTRACT

### **Examining an improvement of inhabitants life carrier degree of cities**

Yoshiaki KANAYAMA

---

This article tried to evaluate a quality of life carrier of the inhabitants of Japanese cities by comparing the 10 cities of Northwest Chiba prefecture as an example, checking among 4 elements – security & amenity, employment, self-sustainability & social connections, and local brands. As a result, the life carrier of the inhabitants of the cities of relatively small population (100,000~200,000) are richer in quality of life than the cities of big population (more than 300,000).

By evaluating with list of check items, it is clear that the life carrier of the inhabitants of Noda city was richer in quality than other cities. However, the problem is that citizen's self-sustainability is inferior to the others. This situation can be solved by a policy of the city which is "town building with citizen's career designing". Also Noda City Museum, trying "to support citizen's carrier designing", serves as a concrete means for the purpose, which is run by NPO Noda Culture Square.